

## 第5節 子どもに問題があるときの対応

この節では、保護者に対して、子供について心配事があったときの配偶者に対する相談状況、また、子供が警察に補導されたと仮定したときの警察に対する期待を尋ねた結果を報告する。

### 1 配偶者への相談

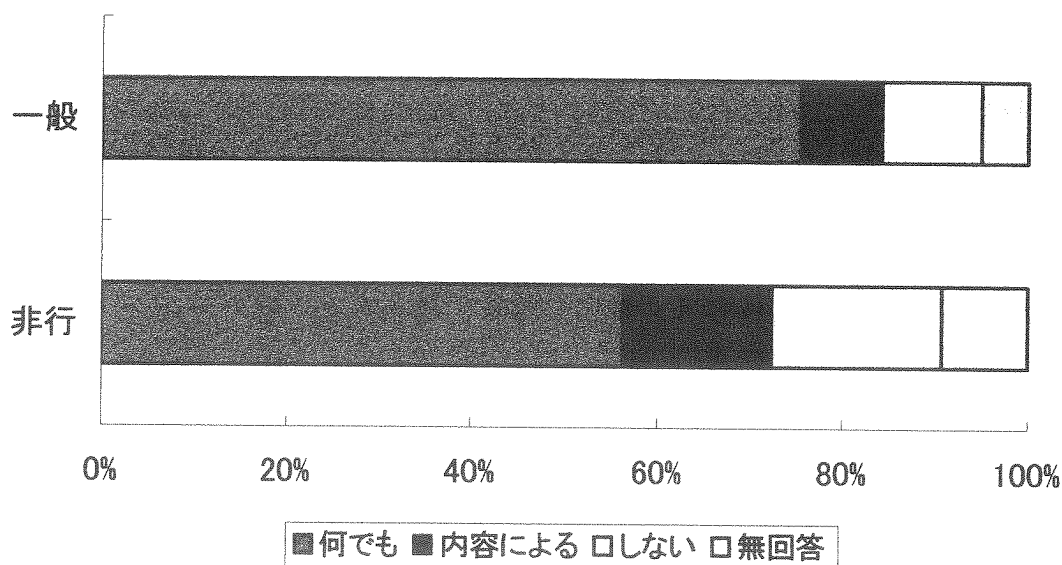
ここでは、保護者が子供のことで心配事があったとき、配偶者にどの程度相談できるかを尋ねた結果について述べる。

回答は、以下の3つの選択肢の中から1つを選択するよう求めた。

- 1 なんでも相談できる【何でも】
- 2 内容によっては相談できないこともある【内容による】
- 3 ほとんど相談することはない【しない】

結果は、図8-1に示すとおりである。

図8-1 保護者の配偶者への相談



これをみると、「何でも相談できる」(一般群；75.4%、非行群；56.3%)と答えた者の割合は、一般群の保護者の方が非行群の保護者より約19ポイント高く、逆に、「ほとんど相談することはない」(一般群；10.8%、非行群；18.4%)と答えた者は、非行群の保護者の方が約8ポイント高い。また、「内容によっては相談できないこともある」(一般群；8.8%、非行群；16.1%)と答えた者も、非行群の保護者の方が約7ポイント高かった。

以上のことから、一般群の保護者の方が非行群の保護者より「何でも相談できる」配偶者との関係が保たれていることが示された。

## 2 警察に対する期待

ここでは、子ども(中学生または高校生)が以下の13の逸脱行為をして警察で補導されたと仮定したとき、保護者が警察に対してどのようなことを望むか、を尋ねた結果について述べる。

- ア 友達どうして酒を飲む【飲酒】
- イ タバコを吸う【喫煙】
- ウ バイクで猛スピードを出して走る【暴走行為】
- エ ナイフを持ち歩く【ナイフ所持】
- オ 自転車置き場においてある他人の自転車に乗る【自転車盗】
- カ 夜遅く友達と町をうろつく【深夜徘徊】
- キ 援助交際をする【援助交際】
- ク 覚せい剤を使う【覚せい剤使用】
- ケ 万引をする【万引】
- コ 学校をサボる【怠学】
- サ 公園に落書きをする【落書き】
- シ バイクの無免許運転をする【無免許運転】
- ス けんかをして友達にケガをさせる【傷害】

回答は、以下の10の事柄のうち当てはまるものすべてを選択するよう求めた。

- 1 親にも必ず連絡して欲しい【連絡】
- 2 親に代わって厳しく叱って欲しい【叱る】
- 3 どうしてそんなことをしたのか子どもに聞いて欲しい【話を聞く】
- 4 継続的に相談にのって欲しい【親の相談】
- 5 警察で以後も子どもを呼んで指導して欲しい【子どもの指導】

- 6 警察関係以外の相談機関を紹介して欲しい【相談機関紹介】
- 7 施設に入れることができるような手続きをとって欲しい  
【施設の手続き】
- 8 近所などに知られないよう秘密を守って欲しい【秘密を守る】
- 9 子どもの問題なので親まで警察に呼ばないで欲しい【親を呼ばない】
- 10 そんなことで子どもを補導して欲しくない【補導するな】

結果は、図8-2から図8-11に示すとおりである。それぞれの期待について述べると次のようになる。

- ・ 「親にも必ず連絡して欲しい」という期待  
この期待は、他の9つの期待よりも一番回答した者の割合が高い。一般群と非行群の保護者を比較すると、すべての逸脱行為に対して一般群の保護者の方が、「親にも必ず連絡して欲しい」と期待している者の割合が高く、特に、犯罪行為より不良行為に対してその差が顕著である。
- ・ 「親に代わって厳しく叱って欲しい」という期待  
この期待は、10の期待の中で、2番目に回答した者の割合が高い。一般群と非行群の保護者を比較すると、すべての逸脱行為に対して非行群の方が「親に代わって厳しく叱って欲しい」と期待している者の割合が高く、特に、犯罪行為より不良行為に対してその差が顕著である。
- ・ 「どうしてそんなことをしたのか子どもに聞いて欲しい」という期待  
この期待は、10の期待の中で、3番目に回答した者の割合が高い。一般群と非行群の保護者を比較すると、全体的にはすべての逸脱行為に対して非行群の方が高い割合を示しているが、大きな差はない。
- ・ 「継続的に親の相談にのって欲しい」という期待  
この期待は、両群の保護者とも、覚せい剤使用(一般群；28.9%、非行群；26.7%)に対して約3割、援助交際(一般群；18.2%、非行群；20.8%)に対して約2割の者が回答したが、これ以外の逸脱行為に対しては、10%台かそれ以下であった。
- ・ 「警察で以後も子どもを呼んで指導して欲しい」という期待  
この期待に対しては、両群の保護者とも比較的高い割合の者が回答している。両群の保護者を比較すると、非行群の保護者の方が顕著に回答している者の割合が高い。
- ・ 「警察関係以外の相談機関を紹介して欲しい」という期待  
この期待は、両群の保護者とも、覚せい剤使用(一般群；27.5%、非行群；20.9%)や援助交際(一般群；14.7%、非行群；11.4%)に対

しての他は、10%以下であった。

- ・ 「施設に入れることができるような手続きをとって欲しい」という期待  
この期待についても、覚せい剤使用(一般群; 12.5%.非行群; 20.2%) に対しての他は、10%以下であった。
- ・ 「近所などに知られないよう秘密を守って欲しい」という期待  
この期待に対しては、両群の保護者とも、概ね10%以上の者が回答している。両群の保護者を比較すると、非行群の保護者の方がどの逸脱行為に対しても高い割合を示している。
- ・ 「子どもの問題なので親まで警察に呼ばないで欲しい」という期待  
この期待に対しては、両群の保護者とも、すべての逸脱行為に対して4%以下であったが、1%を超えていたのは、一般群の保護者では、落書き(1.5%) や怠学(1.4%) 喫煙(1.2%) 飲酒(1.0%) に対し、非行群の保護者は、喫煙(3.1%) 怠学(3.0%) 深夜徘徊(2.7%) 落書き(2.2%) 暴走行為(1.3%) 飲酒(1.3%) に対してとなっており、非行群の保護者の方が、割合は低いものの親まで警察に呼ぶなどという期待を持っている。
- ・ 「そんなことで子どもを補導して欲しくない」という期待  
この期待に対しては、両群の保護者とも、すべての逸脱行為に対して5%以下であったが、怠学(一般群; 4.5%.非行群; 3.4%) や落書き(一般群; 3.6%.非行群; 1.9%) 飲酒(一般群; 3.5%.非行群; 2.3%) 喫煙(一般群; 3.2%.非行群; 2.5%) に対しては数パーセントの者が回答しており、その割合は、一般群の保護者の方が高い。

以上の結果から、特に、「親に代わって厳しく叱って欲しい」や「警察で以後も子どもを呼んで指導して欲しい」という期待が、一般群の保護者に比べ非行群の保護者の方が顕著に高い割合を示していたが、非行群の保護者が、自分の子どもに対して指導が十分にできず、警察にその期待を寄せていると推測できる。

また、いくつかの逸脱行動に対して、全体的には割合が低いものの、「そんなことで子どもを補導して欲しくない」「子どもの問題なので親まで警察に呼ばないで欲しい」と思っている保護者がいることが示された。